

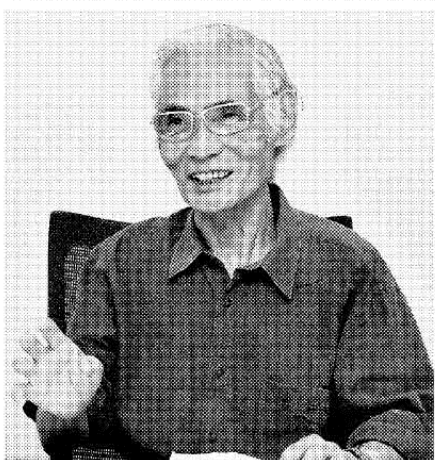


ファンの方には怒られるかもしれないませんが、私がこの方の存在を知ったのは、実は数年前のことです。それで初めて、SFの傑作をたくさん書かれたすごい作家さんなのだと思いました。

わが国を代表するSF小説家・眉村卓さんが11月3日に大阪市内の病院で死去しました。享年85。死因は、誤嚥性肺炎との発表です。報道によれば、眉村さんは7年前に食道がんが見つかりました。このときの治療はうまくいったようですが、昨年、リンパ節への転移が見つかり、放射線治療を受けていたようです。

食道がんは、わが国では年間2万人強の人がなるといわれています。胃がんや大腸がんなどに比べれば、罹患(りかん)す

⑧ SF小説家・眉村卓さん



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化される。関西国際大学客員教授。

人が少ないがんです。ただし進行が早く、リンパ節の転移が起りやすいために治療が難しく、臓腑(すいぞう)がんと並んで予後の悪いがんとも言われます。

60〜70代に多く発症し、また、圧倒的に男性が多いのも食道がんの特徴。自覚症状が出

にくいことが発見の遅れる理由です。もし熱いものや酸っぱいものを飲み込んだときに沁みるような感じがしたり、胸に違和感を覚えたときなどは、消化器内視鏡専門医を受診し検査をされることをお勧めします。

がんが進行すれば食べたものがつかえたり、声がかすれたりすることもあります。しかし、眉村さんはリンパ節転移まで5年以上も時間があつたようなので、手術を受けた意味があつたのでしよう。食道の摘出手術をした場合、どうしても飲み込む力が弱まるため、誤嚥性肺炎を起しやすくなること

があります。さて、私がなぜ数年前に眉村さんのことを知ったかといえば、『妻に捧げた1778話』という本を読んだからです。

眉村さんの妻・悦子さんが大腸がんで余命わずかと宣告されたの

は1997年のこと。それから眉村さんは1日1話、悦子さんのためにショートストーリーを書くことと決めました。出張時もFAXで自宅に送っていたそうです。暗いテーマは避け、明るく笑えるお話に。それは、笑うことで免疫力が上がると聞いたからだといひます。

その甲斐あつて、悦子さんは余命宣告を遥かに超えて5年、生きられました。1778話目を書いたのは悦子さんが亡くなった日。その1週間ほど前から、悦子さんの意識は混濁(混濁)しましたが、枕元で文章を読み続けたといひます。

妻ががんになると、たいいていの夫は狼(うろた)え、本人以上に死に怯えます。しかし眉村さんは違いました。妻を笑わせるために1日1話。これ以上の免疫療法はないですし、この人以上の愛妻家はいないように思ひます。あの世で今、悦子さんと再会し、1779話目を書いているかもしれませぬ。

愛妻に捧げた微笑みの1778日